

〒 _____
 〒 _____

NO.			
作成	年	月	日
	部		課

配布先	

90年度夏山合宿記録

8/11 ~ 17



経路 作成部署 ↓ 報告部署

保管
 写 原紙
 年 年

承認
検計
作成

Aパーティー
 CL 大矢 SL 板倉 伊藤 藤田(南) 木村

Bパーティー
 CL 町田 SL 千嶋 塚本 岡部 齊藤

日本電装山岳部

〒 _____
〒 _____

90年度夏山合宿全体を振り返って

NO. _____
作成 90年 8月 29日
部 _____ 課 _____

配布先

今回は、南アルプスの沢登りをやるという方針に基づいて、2つのパーティーをつくり、Aパーティーは沢登り技術の養成、新入部員3人を含む、Bパーティーは山行基礎技術の養成を目的として合宿を実施した。いろいろハプニングはあったが、天候にも恵まれ、全体としてはますますの山行ができたと思う。

合宿を振り返ってみると、前半の黄蓮谷は手こたえのある沢であった。これでもかと次々と現れる滝の連続、シャワータイム、高巻き、冷汗もののトラバース、一日で抜けられずヒバーク。そして最後はお花畑からすんなりと出た丸合目……。細沢もまた違った味ゆいがあった。黄蓮谷の様々急傾斜のT×はなにか、清流が作る明るい滝か、谷か良かった。南アルプスの沢に入ると、これほど違った新しい世界が広がったような気がした。

反省点もいろいろある。まず、コース正式決定が遅かったこと。今回、平地合宿は1回(7/28)だけだったが、7月前半にもう一回やれば良かったかも知れない。次にコース状況の説明が留守部員にうまく伝わらなかったこと。(筒井さんの御指摘あり) それと、合宿中については、予備地図・予備筆記具を持っていかず、黄蓮谷のもくすと消えて困ったこと。昔は必ず持っていったのに、段々怠慢になってしまった。

最後に、個人的な感想であるが、つい半年前くらい前までは夏の南アルプスなど2度と行きたくないと思っていた私であるが、登り方を変えれば、まだまた南アルプスも捨てたものでないと思うようになったのが、今回の最大の収穫であらうか？

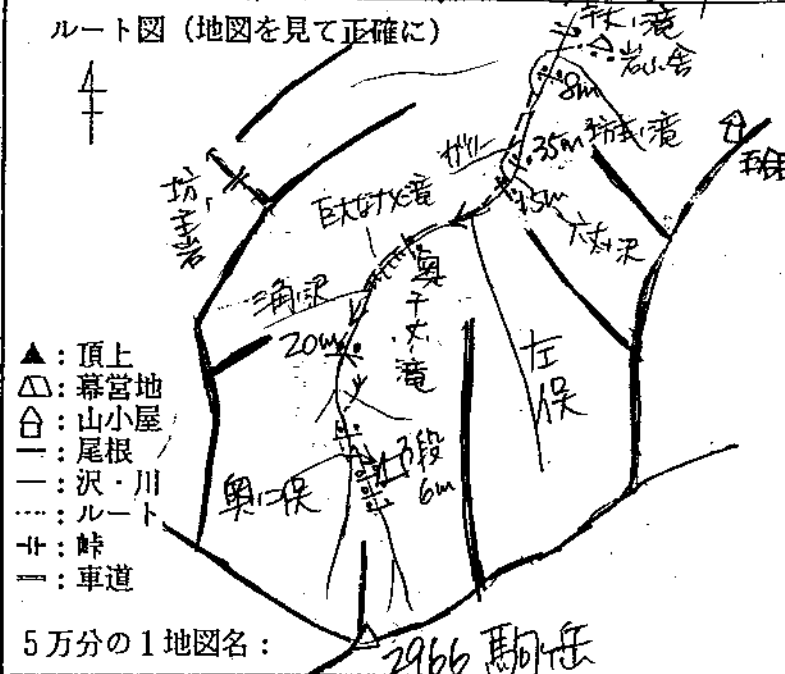
経路
作成部署↓報告部署
保管
写原紙
年 年

承認
検討
作成 大矢

月例会 個人	山行	集会報告書		報告者 報告日	板倉 8/29	参加	CL:大木 藤田 伊藤 木村 板倉
山名	南アルプス 黄蘗谷右保	山行日	90年8月12日(日)~ 年月日()	メンバー			

山行目的: 真山合宿 (沢登り) コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先
集会: 8
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者



3:00 起床
4:30 岩倉
4:35 千丈滝上
5:10 出発
6:25 奥二保
入
10:00 スラッグ
12:00 雪渓
14:30 奥二保

明日の雪を心配
待つ。雨の量は
多し。

<報告者所見> 今日は時間がかかりかかると思い暗い内に昨日偵察しておいた千丈滝上
から降りる。雨の8mの滝を高巻くと、テントが4張り張ってあり、お出立の様子はない
坊主滝(35m)はすべい水量で落ちていて、右のガール入り急な斜面を登り、
滝上へ降りる。最初に出てくる15mの滝は、ガールを出し、シャクタイム。左保との出合
いを越すと、水量の多いスラッグで、これもシャクタイムで次々と越していく。ガイド
に流水溝と書いてあるが正にそとおりである。古いスラッグの右岸に古い4代目
ガールを出す。最後のピッチが濡れている。ここで振り返ると坊主
岩下の巨木スラッグの壁がすべい迫力で深へ落ちこんでいる。このピッチの厚い壁
が地形図で写っている。気がおかしは伊藤さんのみである。

続く奥二保滝の核心部の20mの滝は、何なく越し、しばらく行くと、雪渓の7

<リーダー所見> リッジがかかっている。この滝で水を浴
びたがとて冷たかった。おきると正面に40m程の
スラッグが表れ、右岸の樹林を高巻くと、その上の
緩いスラッグが烏帽子沢との出合いで左岸に慎重に
ジャンプする。その後には20m程の溝の右岸を登り
降り、しばらく行くと奥二保となる。右のガール、正面が
35m程の垂直の滝。私たちが、ガスで視界が悪く、川

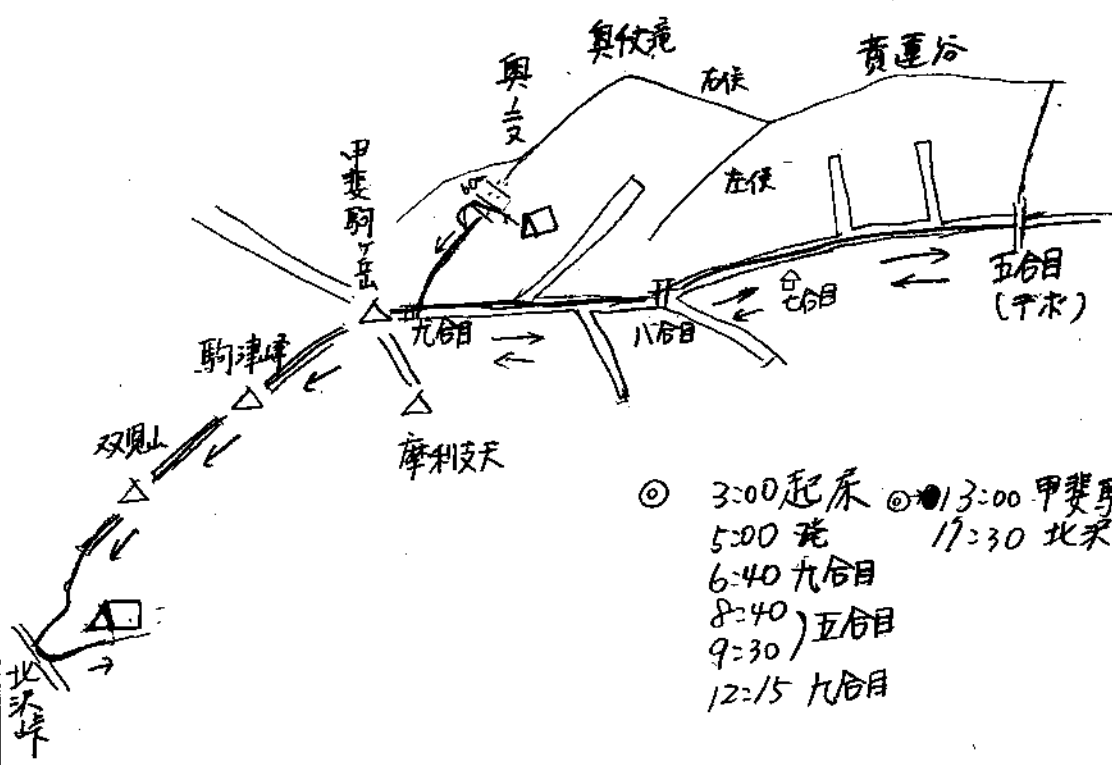
フリースペース
山の紹介・スケッチ・エビ
ソード・その他自由に
ここでバグする。これ
この滝上に左側にお
踏跡に沿って、テ
張り分の0地へ、ソ
トを張る。

〒 _____
↑
〒 _____

8/13 (月) 行動記録

NO.	
作成	90年 8月29日
部	課

配布先	



- ◎ 3:00 起床
- ◎ 5:00 発
- ◎ 6:40 九合目
- ◎ 8:40 五合目
- ◎ 9:30 九合目
- ◎ 12:15 九合目
- ◎ 13:00 甲斐駒ヶ岳
- ◎ 17:30 北沢峠

経路
作成部署 ↓ 報告部署
保管
写原紙
年 年

テラス状になった快適なビバーク地を出る。昨日の夕方から
 大気が不安定のためか、空は曇っている。3段60mの滝の
 一番上の滝を右から高巻いて登る(ザイル使用)を。沢はゴ-ロ
 状になり、上の方で昨日出会ったパーティーがビバークしていた。
 そのまま更につめて行くと、程なく水が枯れお花畑になった。
 踏跡をたどり最後に岩を乗越すとあっという間の九合目
 に出た。前に行った北アルプスの赤木沢も最後はすそ野と
 稜線に出られたか。黄蓮谷右俣もなかなか良い。頂上へは
 向かわずに、五合目のテラス地へ急ぐ。なかなか急な下りで、
 登り返すことを思うと足だけでなく、気も重くなった。五合目で
 パッキングをして、再び甲斐駒を目指す。重い足を引かずに登
 った頂上から下ると、雨が降り出した。弱り目にたたり目にはこのこ
 で、北沢峠に着くと暗くなりかけていた。

承認	
検討	
作成	大天

'90 夏山台宿 報告書 (南ア) --- A party

◎ 8/14日 報告。

報告者 伊藤

1. コース --- 南ア, 北沢峠 --- 広河原 --- 鷲住山 --- 細沢C.S

2. メンバー --- 大矢, 板倉, 伊藤

3. 記録 --- 北沢峠 --- 広河原 --- 鷲住山 --- トンネル --- 林道終点

10:30 バス 11:00 975- 12:00 1:05 2:50

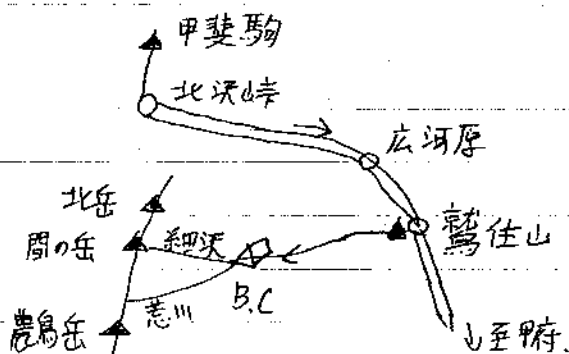
3:30

途中(積田) --- 細沢B.C

3:50

4:30

5:30



4. 所見

この日は、ひさしぶりに朝遅くまでおむる。沢の疲れをいやした。Bパーティー、舟羽さんたちが出発するのを見送りながら、私たちが遅いバスで出発。その前に、藤田さんが朝一だったので時間少々に仙丈ピストンして来たのにあせんとした。鉄人をこえて、スーパーマンになったみたいだ。

バスを広河原でおり、タクシーのりかえ鷲住山着。鷲住山を一気に下山し、真暗なトンネルをこえ、林道を進むと、林道とフリ橋が落ちており、道をふさがれ、しばらく道をさがす。フリ橋を渡り、横手道を進む予定であったが、荒川でいのがなりハイ巻き道を進むことにした。一応ルートはついていますが、最後にザイルを使って徒渉すると、C.Sに到着。C.Sはかなり広い河原で、小さな小屋があり、ホースで近くまで水がひいてある。非常に快適な所である。私たち以外に、もうパーティー4人組が入っていた。

月度例会 個人	山行	集会報告書		報告者 報告日	板倉 8/29	参加 メンバー	CL: 大矢 伊藤 板倉
山 域 名	南アルプス 細沢-間岳	山行日	90年8月5日(水)~				

山行目的: 夏山合宿
コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先
集会: 8
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者

ルート図 (地図を見て正確に)

▲: 頂上
△: 幕営地
台: 山小屋
—: 尾根
—: 沢・川
---: ルート
+: 峠
=: 車道
5万分の1地図名

コースタイム (天候: 天気図記号)

- 3:20 起床 ①
- BC 5:10 - 6:20
- 15:20 6:30 - 7:40
- 滝上 (植林道中)
- 9:00 "12mF" -
- 11:00 "2060" ○
- 12:40 "2500" (3:00)
- 14:20 間岳 (頂上ばがえが立ちこめる)
- 15:20 豊島小屋
- 16:40 - 17:30 じいり

<報告者所見> サイド等でBCのルートが示されているのは知っていたが敢えて沢沿いに進んだ。ゴルジュで断崖した岸の急斜面の下を高巻くことにする。しかしお判に急な為上からゲイルを降す。上へ出ると横手道で、吊り橋までこの道で行うとするがルートはカズの上の側に付いていると感慮し植林道を進むが途中で道が無くなり強引にトバースし植林を下ると沢へ出た。沢は中が10m~15mの規模の小さな沢だが水量は多く暑い日差しに水の冷たさがとても気持ち良い。1ピコ程行くとルート中の唯一の大きな滝(12m)がすごい勢いで氷を落としており落下のしぶきがかわかり体中濡れてしまった。滝は右側のクワクが登れそうだが高巻くことにする。ピコ上へいくにつれて水はしだいに冷たくなる。ずと手を入れているとしびれそうだった。"2060メートル"付近で休憩を取ると前方には弘法小屋尾根の

<リーダー所見> 上部の岩肌が良く見える。お判先に進むと水が無くなり、両側から木の覆。たおやかな沢とお判ルートがおきれた沢。高山植物が出るころからがう場の急登となる。がう場を苦戦して登りきると間岳にたどり着く。頂上付近はガスで視界がつかないが一瞬北岳がその姿を見せる。豊島小屋の水場からは荒川本谷への下降ルートを

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に探すに苦慮するが結局樹林帯を強引に下降し、右のゴッポラした台地をピコ地し。夜は大矢講師の星の講義を聞く。

'90夏山合宿報告書 (南ア) ---- Apanty

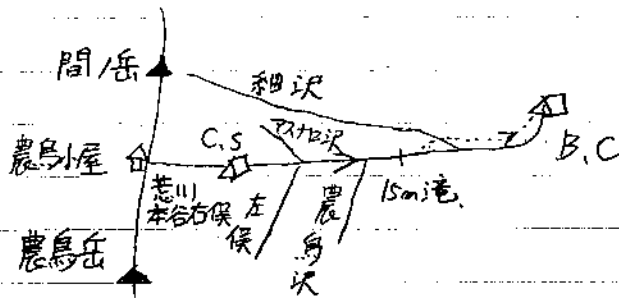
◎ 8/16 報告

報告者 伊藤

1. コース --- 南ア、荒川本谷右俣沢下降 - B,C

2. メンバー --- 大矢, 板倉, 伊藤

3. 記録 --- 本谷ビーク地 → アシ沢出合い → 農鳥沢出合い → 15m滝
 6:00 (C.S) 7:06 8:22 9:00
 10:16
 → ゴルジュ入口 --- 12:25
 11:20 B,C



4. 所見

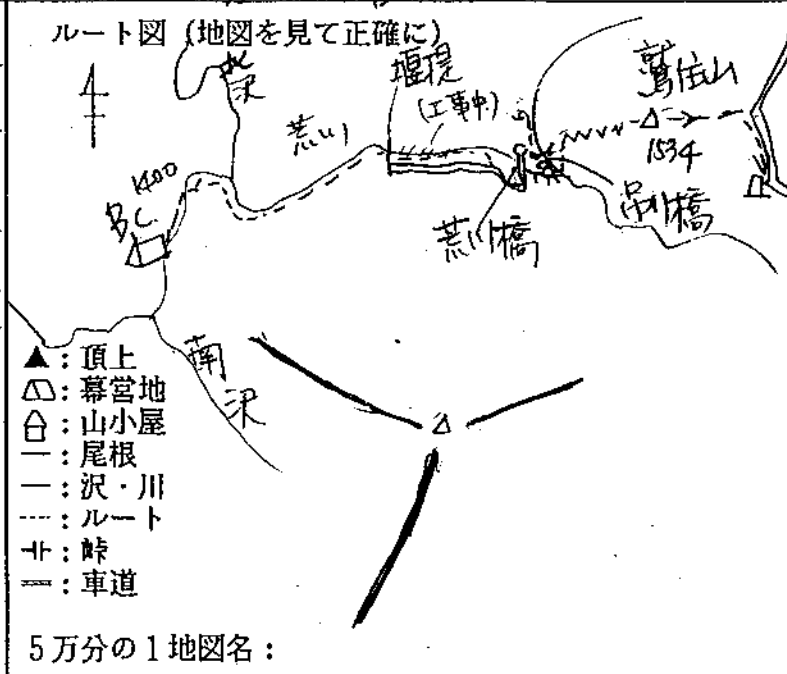
この日のビブーク地は、大きな岩のガレ場にツェルトを張っておいたため、朝おきると体中がいたく、まともに寝られなかった。過去色々な所で寝て来たけれど、これほどひどい凸凹の上で寝たのもめずらしい。寝不足で朝6:00出発する。この荒川本谷の沢は、前半はウラウラの沢でいかにガレ場を快適に進む。天気もよく気持ちいい。中は走ると境がいくつか出て来て、ザイルを使いながらまいり下りる。最後の15m滝の懸垂下降には、時間がかかる。約20~25mの滝の右側の壁を下りる。大矢君は、本番での懸垂下降は初めてで、かなり緊張気味。無事3人共降りると、後は、左岸の巻き道に入り、横手道に出会い、そのままB,Cに12:25に到着。今合宿2つ目の逆行を無事終え、ほっとする。

この日は、意外と早くC.Sに着くことが出来、又、最後の宿泊でもあつたため、テント場につきしな、残った食料をこれでもかというぐらい、寝るまで飲んで、食べつづける。たき火をしなが58:00ごろまで3人でささやかなキャンプファイヤーを行なう。今までの緊張から解放されて、山の生活を楽しんだ。

月度例会 個人	山行	集会報告書	報告者 報告日	板倉 8/29	参加 メンバー	CL: 大矢 伊藤 板倉
山 域 名	南アルプス 荒川	山行日	90年 年	8月17日 月	日(金)	

山行目的: 夏山合宿
コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先
集会: 8
山行: 1
リーダー
原紙: 集
会担当者



①
3:20 起床
BC 5:10 - 6:20
堰堤 - 7:40
荒川沿いの工事場
8:05 - 9:05
鷺住山中継 9:20
- 9:45 (休停)
10:05 9:20 - 11:00
甲府駅

堰堤で入山時
05:60mのほど
は便にCTといふ
下降ルートを探す
(1:00)

<報告者所見> 今日はいよいよ合宿最終日である。すばらしいBCを後に出発する下降ルートと北沢横手道と想っていたが、入りがよくわからず、入山時の荒川沿いの道を帰ることにする。荒川を一度渡渉するが、水量が入山時に比べずいぶん減っているので案に渡渉出来た。ピットで堰堤へ出るが、高い垂直のほねにEやめた方がよいというリーダーの判断から、まず植杖(約5m)のロープ(工事用)を使い下降を試みるが途中で流しが急で引き返す。どうしたら良いか迷っていると堰堤の下から人が上り来て、通れるということで工事用のフックス・ロープを使い通過した。

そこから道路沿いに野呂川の発電所まで行き、約5位の針金で吊るある吊り橋も、快適に通過すると、後は鷺住山の急登のみ

←サグザ見→ である。入山時の重荷ではたいてい、気持ち良く登れるが、靴が濡れて重い為、じわじわにきつくなり、汗はたらいたらと苦戦し雪が積もたらきついでと想像できる。
バス停からは、カシで行き、甲府駅近くのサグザで合宿のアカを落とし、合宿を終えた。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に